

2024年 2 月期 決算期 (2023年 3 月 1 日～2024年 2 月 29 日)

決算説明資料



© 2024 Legendary and Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.

2024年 4 月 15 日 (月)



Entertainment for YOU

— 世界中のお客様に 感動を —

2024年2月期 決算期 営業概況

	2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	2024年2月期 (2023年3月～2024年2月)	前期比	増減率
営業収入	244,295百万円	283,347百万円	39,052百万円	16.0% ↗
営業利益	44,880百万円	59,251百万円	14,371百万円	32.0% ↗
経常利益	47,815百万円	63,024百万円	15,209百万円	31.8% ↗
親会社株主に帰属する 当期純利益	33,430百万円	45,283百万円	11,852百万円	35.5% ↗

2024年2月期 決算期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

2022年4月に創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」から構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を策定しており、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組みを進めております。

当期は、「中期経営計画 2025」で掲げた数値目標である「営業利益の最高益（528億円）更新」を2年目で達成、及び「ROE（自己資本利益率）目標8%以上」を2年連続で達成しました。

【第4四半期決算の概況】

映画営業事業において、第3四半期から続映作品で、国内のみならず北米等でも大ヒットを記録した「ゴジラ-1.0」をはじめ、「劇場版 SPY×FAMILY CODE：White」のほか、「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」等の大ヒットもあり、増収増益。

映画興行事業において、上記の当社配給作品のヒットや「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」等が貢献し増収増益。

映像事業において、「SPY×FAMILY」「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「ハイキュー!!」等のTOHO animation作品が、動画配信、商品化権、パッケージ販売等の多面的展開により好調に推移した結果、大幅な増収増益となり全体の業績を牽引。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、帝国劇場「Act ONE」や、シアタークリエ「VOICARION XVII～スプーンの盾～」、日生劇場「ベートーヴェン」等が好調に推移し、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において「東宝日比谷プロムナードビル」をはじめとする新規物件が好調に推移し、減価償却費等の増加があったものの、増収増益。

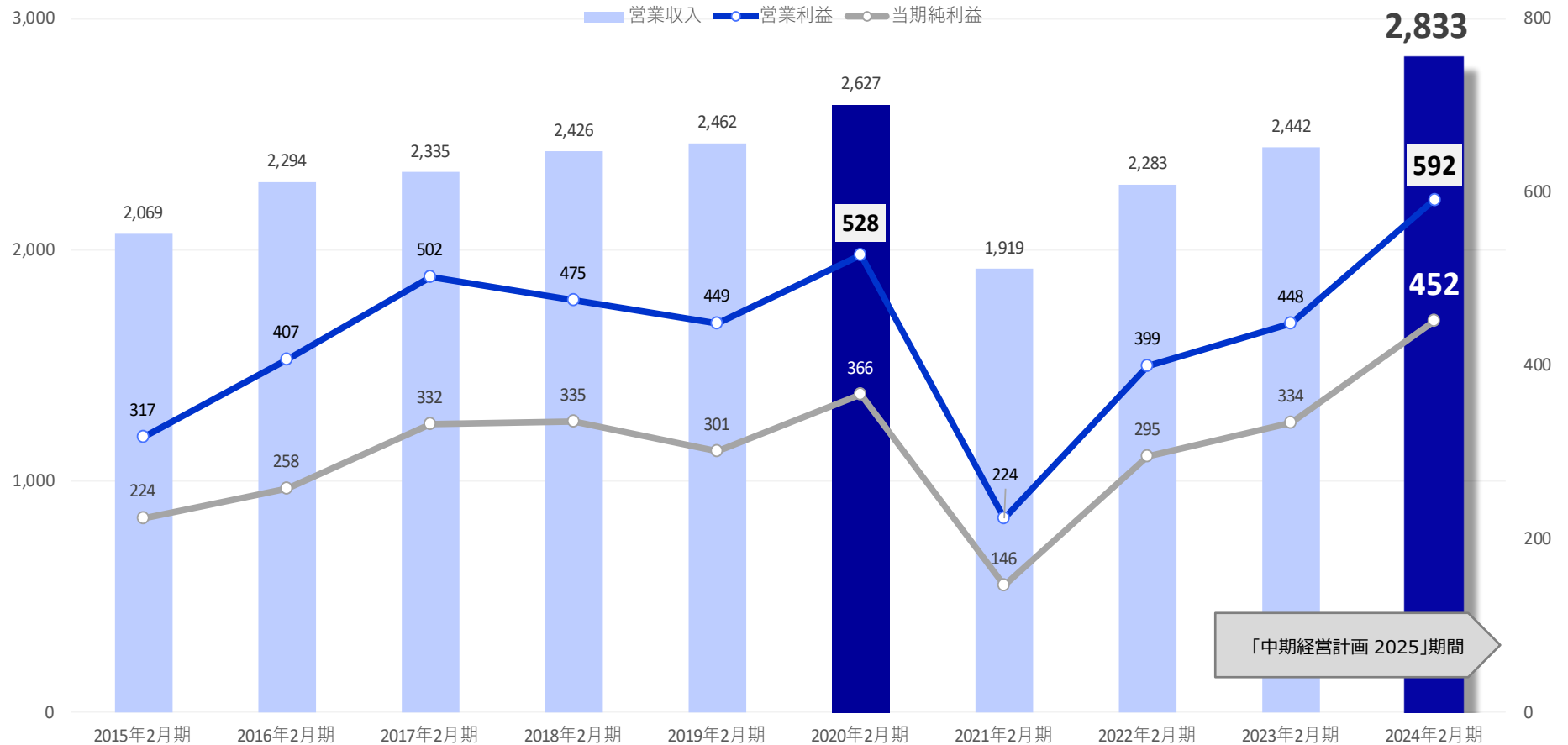
上記の結果、当期の営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が増収増益となり、各段階で歴代最高を記録。

連結業績の推移

2022年4月策定の「中期経営計画 2025」で掲げた数値目標である
「営業利益の最高益（528億円）更新」を2年目で達成

営業収入・営業利益・当期純利益の推移

(単位：億円)

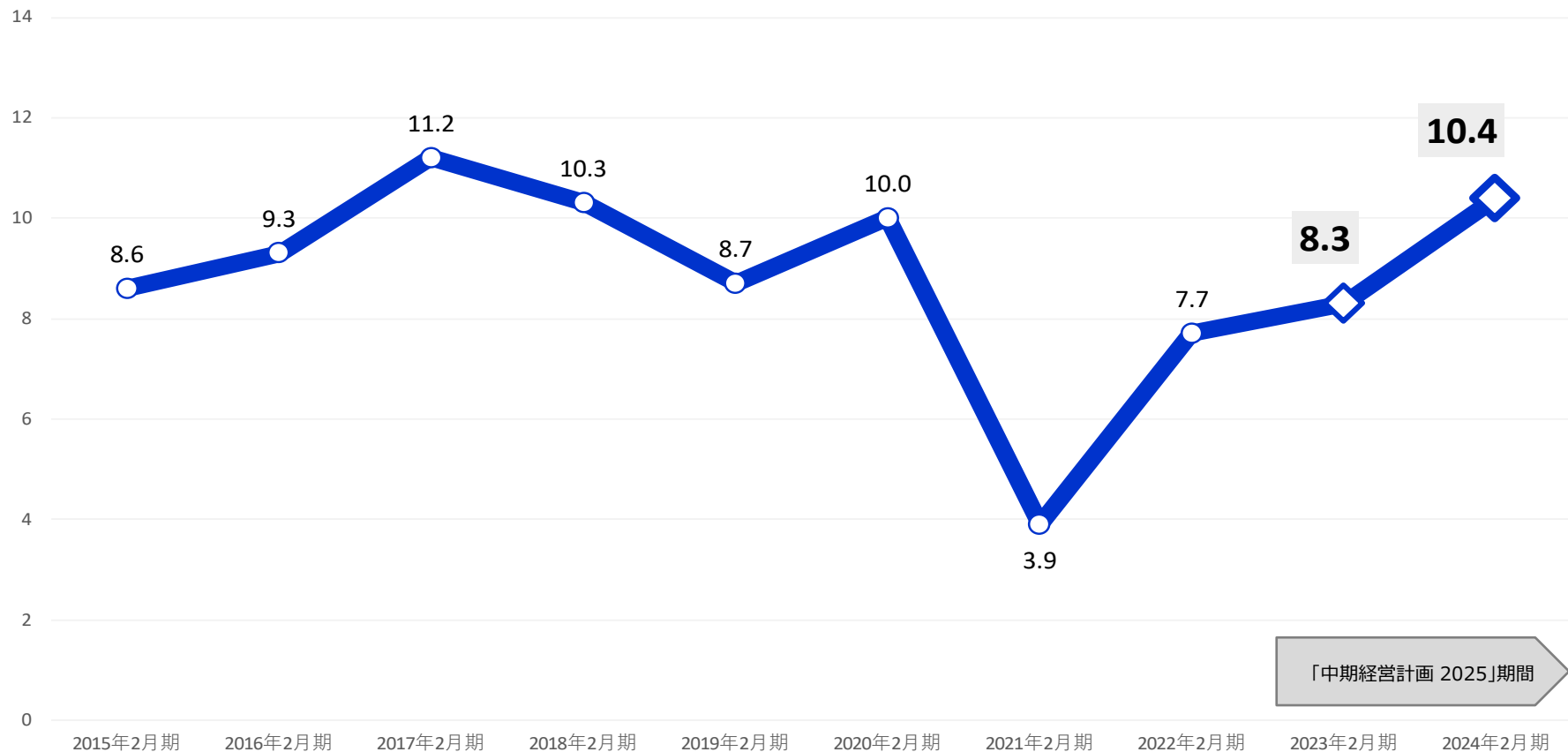


連結業績KPIの推移

2022年4月策定の「中期経営計画 2025」で掲げた
「ROE（自己資本利益率）目標8%以上」を2年連続で達成

(単位：%)

ROE（自己資本利益率）の推移



当期純利益	224	258	332	335	301	366	146	295	334	452
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(単位：億円)

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	2024年2月期 (2023年3月～2024年2月)	増減率	2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	2024年2月期 (2023年3月～2024年2月)	増減率
①映画事業	158,015	192,794	22.0% ↗	29,075	44,709	53.8% ↗
映画営業	40,903	46,505	13.7% ↗	13,532	17,908	32.3% ↗
映画興行	71,054	78,440	10.4% ↗	7,394	11,083	49.9% ↗
映像事業	46,058	67,849	47.3% ↗	8,148	15,717	92.9% ↗
②演劇事業	18,202	20,153	10.7% ↗	2,774	3,115	12.3% ↗
③不動産事業	66,913	69,142	3.3% ↗	17,572	17,610	0.2% ↗
不動産賃貸	28,022	29,387	4.9% ↗	11,554	11,588	0.3% ↗
道路事業	28,907	29,245	1.2% ↗	5,092	4,900	-3.8% ↘
不動産保守・管理	9,983	10,509	5.3% ↗	926	1,122	21.1% ↗
④その他事業	1,163	1,256	8.0% ↗	130	174	33.3% ↗

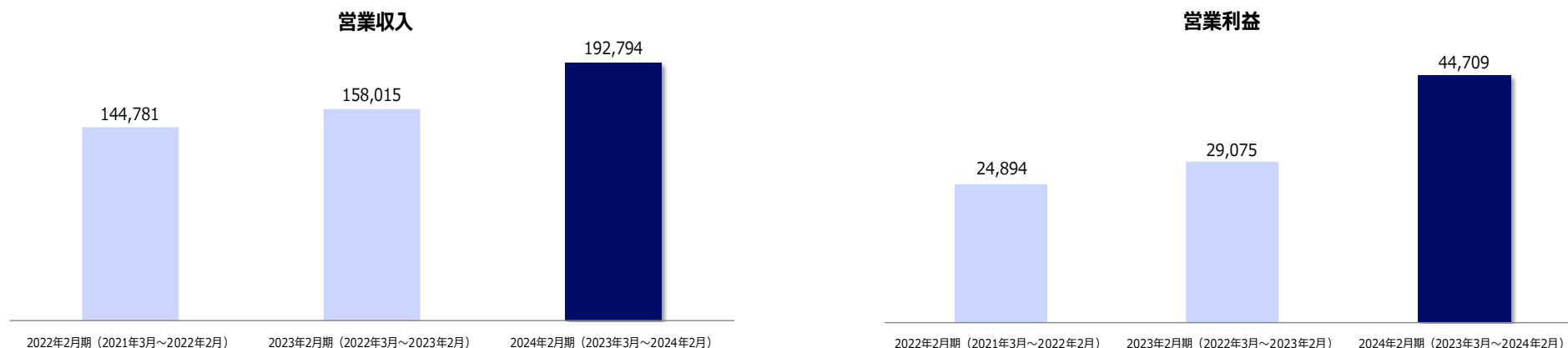
(単位: 百万円)

セグメント別業績（四半期別）

	営業収入				営業利益			
	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)	第3四半期 (2023年9月～11月)	第4四半期 (2023年12月～2月)	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)	第3四半期 (2023年9月～11月)	第4四半期 (2023年12月～2月)
①映画事業	50,925	43,946	41,390	56,532	13,155	9,676	6,849	15,028
映画営業	13,859	10,615	8,723	13,306	5,798	3,812	2,057	6,240
映画興行	23,207	21,309	14,439	19,483	4,668	3,445	971	1,996
映像事業	13,859	12,021	18,226	23,741	2,688	2,417	3,819	6,791
②演劇事業	5,385	4,321	4,800	5,645	1,212	52	991	859
③不動産事業	17,535	16,927	16,930	17,748	5,160	4,089	4,369	3,990
不動産賃貸	7,269	7,261	7,386	7,469	3,302	2,729	2,809	2,746
道路事業	7,768	6,922	6,948	7,606	1,632	1,008	1,301	956
不動産保守・管理	2,498	2,743	2,595	2,671	225	351	257	287
④その他事業	305	293	336	321	51	62	77	▲ 17
合計	74,153	65,489	63,457	80,247	18,324	12,428	10,858	17,640

(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、第3四半期から続映の「ゴジラ-1.0」(国内興行収入71.3億円)をはじめ、「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」(同87.5億円)、「劇場版 SPY×FAMILY CODE：White」(同62.6億円)、「ゴールデンカムイ」(同29.2億円)等がヒット。また、「ゴジラ-1.0」は当社として初となる北米での自社配給を実施。12月1日の公開以降、邦画実写作品として歴代最高となる北米興収を記録し、この収益の一部を当第4四半期に計上。以上のとおり、国内配給事業の好調、また新たな試みである海外自社配給の成功も貢献し、増収増益。
(興行収入は2024年3月末時点)
- 映画興行事業では、上記の東宝配給作品をはじめ、「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」や「機動戦士ガンダムSEED FREEDOM」といった作品が好調に推移したことに加え、昨年6月からの鑑賞料金改定の効果もあり、増収増益。
- 映像事業では、アニメ制作事業において、「SPY×FAMILY」「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「ハイキュー!!」等、TOHO animation作品の動画配信や商品化権等の各種配分金収入が好調に推移。パッケージ事業では、「呪術廻戦」TVシリーズ第2期等の販売が好調。出版・商品事業では、「劇場版 ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「ゴジラ-1.0」のパンフレットやキャラクターグッズの販売が好調。ゲーム事業では、TOHO Gamesの「呪術廻戦 ファントムパレード」が好調に推移。映像事業全体として、大幅な増収増益となり全体の業績を牽引。

当期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開日	興行収入
名探偵コナン 黒鉄の魚影（サブマリン）	4月14日	138.8
君たちはどう生きるか	7月14日	92.6
劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦	2月16日	87.5
ゴジラ-1.0	11月3日	71.3
劇場版 SPY×FAMILY CODE: White	12月22日	62.6
キングダム 運命の炎	7月28日	56.0
ミステリと言う勿れ	9月15日	48.0
劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」	4月28日	45.3
映画ドラえもん のび太と空の理想郷（ユートピア）	3月3日	43.4

作品名	公開日	興行収入
ゴールデンカムイ	1月19日	29.2
わたしの幸せな結婚	3月17日	28.0
しん次元！クレヨンしんちゃんTHE MOVIE 超能力大決戦 ～とべとべ手巻き寿司～	8月4日	24.7
怪物	6月2日	21.5
ワールドツアー上映「鬼滅の刃」絆の奇跡、そして柱稽古へ	2月2日	21.5
沈黙の艦隊	9月29日	13.7
アナログ	10月6日	12.2
首	11月23日	11.6

東宝東和(株)等配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開日	興行収入
ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	4月28日	140.2
ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE	7月21日	54.4
ワイルド・スピード/ファイヤーブースト	5月19日	38.2
トランスフォーマー/ビースト覚醒	8月4日	12.9

(2024年3月末日現在 単位：億円)

当期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,404	6,547	148.7%
4月	7,382	11,388	154.3%
5月	8,719	8,767	100.6%
第1四半期	20,506	26,703	130.2%
6月	2,616	3,182	121.6%
7月	4,161	6,867	165.0%
8月	4,150	9,148	220.4%
第2四半期	10,928	19,197	175.7%
9月	3,302	5,070	153.5%
10月	2,640	4,689	177.6%
11月	7,239	5,175	71.5%
第3四半期	13,182	14,935	113.3%
12月	7,451	5,631	75.6%
1月	5,911	6,211	105.1%
2月	5,078	9,137	179.9%
第4四半期	18,441	20,980	113.8%
通期	63,059	81,817	129.7%

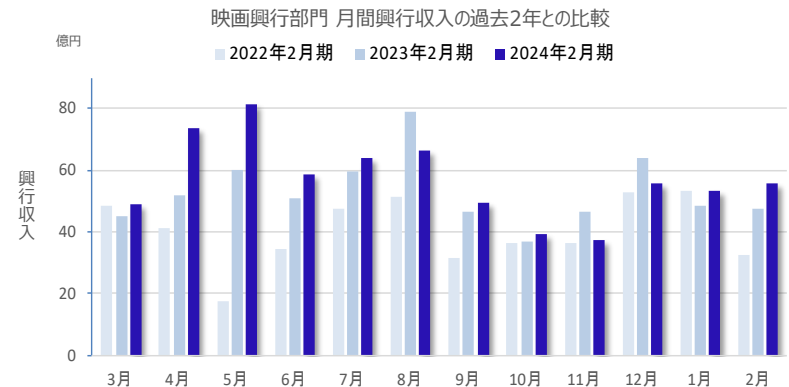
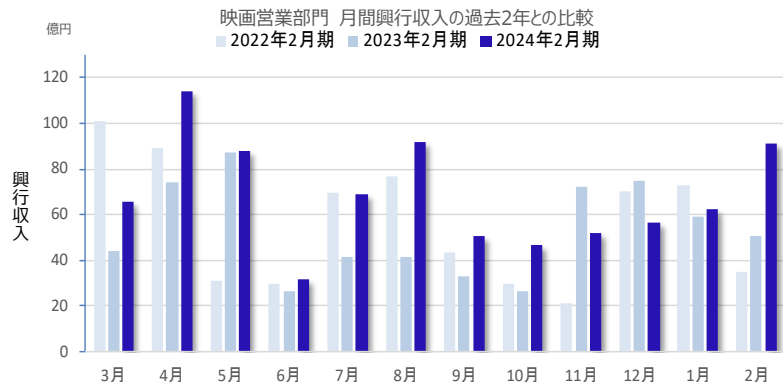
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

映画興行事業 興行収入推移

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,494	4,896	108.9%
4月	5,203	7,374	141.7%
5月	6,004	8,133	135.5%
第1四半期	15,702	20,404	129.9%
6月	5,092	5,864	115.2%
7月	5,949	6,395	107.5%
8月	7,871	6,624	84.2%
第2四半期	18,914	18,884	99.8%
9月	4,650	4,952	106.5%
10月	3,683	3,911	106.2%
11月	4,630	3,740	80.8%
第3四半期	12,964	12,604	97.2%
12月	6,399	5,586	87.3%
1月	4,870	5,351	109.9%
2月	4,734	5,569	117.6%
第4四半期	16,004	16,506	103.1%
通期	63,584	68,400	107.6%

※全国のTOHOシネマス等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）



2025年2月期の公開予定作品（4月15日現在）

東宝(株)配給作品

作品名	公開日
映画ドラえもん のび太の地球交響楽	3月1日
映画しまじろう「ミラクルじまの なないろカーネーション」	3月8日
変な家	3月15日
四月になれば彼女は	3月22日
名探偵コナン 100万ドルの五稜星（みちしるべ）	4月12日
ゴジラxコング 新たなる帝国	4月26日
劇場版「ウマ娘 プリティーダービー 新時代の扉」	5月24日
映画「からかい上手の高木さん」	5月31日
ディア・ファミリー	6月14日
映画「おいハンサム!!」	6月21日
キングダム 大將軍の帰還	7月12日
もしも徳川家康が総理大臣になったら	7月26日

作品名	公開日
化け猫あんずちゃん	7月公開予定
僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト	8月2日
映画クレヨンしんちゃん オラたちの恐竜日記	8月9日
きみの色	8月30日
ラストマイル	夏公開予定
スオミの話をしよう	9月13日
六人の嘘つきな大学生	11月22日
ふれる。	秋公開予定
スマホを落とすだけなのに ～最終章～ ファイナル ハッキング ゲーム	秋公開予定
踊るプロジェクト映画最新作	秋公開予定
PUI PUI モルカー（タイトル未定）	2024年 公開予定
ふしぎ駄菓子屋 銭天堂	2024年 公開予定

東宝東和(株)等配給作品

作品名	公開日
ARGYLLE／アーガイル	3月1日
FLY！／フライ！	3月15日
ボブ・マーリー：ONE LOVE	5月17日
ナイトスイム	6月7日

作品名	公開日
ブルー きみは大丈夫	6月14日
クワイエット・プレイス：DAY 1	6月28日
怪盗グルーのミニオン超変身	7月19日
フォールガイ	8月16日

当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第4の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

～アニメ事業に関するトピックス～

- スマートフォン向けゲーム「呪術廻戦 ファントムパレード」好評配信中
- TVアニメ「狼と香辛料」が4月1日より放送中
- TVアニメ「刀剣乱舞 廻 -虚伝 燃ゆる本能寺-」が4月2日より放送中
- TVアニメ「無職転生Ⅱ ～異世界行ったら本気だす～」が4月7日より放送中
- TVアニメ「怪獣8号」が4月13日より放送中

～今後のトピックス～

《TVアニメ》

- 「僕のヒーローアカデミア」第7期が5月4日より放送
- TVアニメ「天穂のサクナヒメ」2024年放送予定
- TVアニメ「ぷにるはかわいいスライム」制作決定
- TVアニメ「呪術廻戦 死滅回遊」制作決定
- TVアニメ「Dr.STONE SCIENCE FUTURE」制作決定

《劇場用映画》

- 「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」8月2日公開

TVアニメ「刀剣乱舞 廻 -虚伝 燃ゆる本能寺-」



©2024 NITRO PLUS・EXNOA LLC/『刀剣乱舞 廻』製作委員会

TVアニメ「怪獣8号」



©防衛隊第3部隊 ©松本直也/集英社

TVアニメ第7期「僕のヒーローアカデミア」



© 堀越耕平/集英社・僕のヒーローアカデミア製作委員会

毎週火曜23:00よりTOKYO MX,BS11にて放送中。
各動画配信サービスで配信中

原案は、2015年1月のサービス開始以降、大きな支持を獲得し、全国に刀剣ブームを巻き起こす一因ともなった“とらぶ”こと「刀剣乱舞 ONLINE」。

これまでにアニメ・ミュージカル・コンシューマーゲーム・舞台・映画・歌舞伎など数多くのメディアミックスを成功させ、エンタテインメント界を席卷。アニメ「刀剣乱舞 廻 -虚伝 燃ゆる本能寺-」は、舞台「刀剣乱舞」の中でも特に人気の高い第一作目を脚本原案とした新作アニメシリーズ。これまで長年舞台の脚本・演出を手掛けてきた未満健一が、本作でも脚本・シリーズ構成を務め、原案ゲーム「刀剣乱舞ONLINE」の声優陣がキャラクターボイスを担当。

大ヒットコンテンツの新作アニメシリーズとして注目を集めている他、「刀剣乱舞」の入門に適した作品としてアニメファンからも大きな反響を得ている。

毎週土曜23時よりテレ東系列ほかにて放送 & X (Twitter)にて全世界リアルタイム配信中 各動画配信サービスで配信中

集英社「少年ジャンプ+」にて連載中、国内累計発行部数1,300万部（デジタル版含む）を超える松本直也による大人気コミック「怪獣8号」を、アニメーション制作：Production I.G（『攻殻機動隊』シリーズほか）、怪獣デザイン&ワークス：スタジオカラー（『エヴァンゲリオン』シリーズほか）による大怪獣級タッグが映像化。

監督：宮繁之・神谷友美以下、キャラクターデザイン・総作画監督：西尾鉄也（『NARUTO -ナルト-』キャラクターデザインほか）、怪獣デザイン：前田真宏（『シン・ゴジラ』ゴジライメージデザインほか）ら超豪華スタッフに加え、全英チャート1位の若きロックスター・Yungbludがオープニング・テーマ、グラミー賞3度受賞のライアン・テダー率いる世界的ロックバンドOneRepublicがエンディング・テーマを担当。ワールドクラスの才能が結集し、全世界から大きな反響を集めている。

5月4日～毎週土曜17:30より読売テレビ・日本テレビ系全国29局にて放送
これまでの“ヒロアカ”の中で7期へと繋がる重要な物語に新規シーンを交えて贈る「僕のヒーローアカデミア Memories」4月6日～全4回 土曜17:30より読売テレビ・日本テレビ系全国29局にて放送中 ※一部地域を除く 各動画配信サービスで順次最新話配信

原作はコミックシリーズ世界累計発行部数1億部を誇る、週刊少年ジャンプ（集英社刊）で連載中の堀越耕平による大人気漫画。2016年4月のTVアニメ第1期を皮切りにこれまで第6期まで放送され、劇場版3作も公開。原作連載10周年を迎える本年5月4日（土）から「最終決戦」を描くTVアニメ第7期が放送開始。3月開催の「AnimeJapan2024」で解禁された7期PVにTK from凛として時雨によるオープニングテーマ「誰我為」を使用、楽曲面でも大きな話題を呼んだ。また、本年3月からは人気テーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」とのコラボレーションがスタートし、その他各種タイアップなども展開予定。さらに8月2日（金）には3年振りとなる劇場版最新作「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」の公開も決定しており、“ヒロアカ”は国内外のファンから大きな話題と期待を集めている。

2024年2月期 アニメ事業 ソース別営業収入及び国内外構成比

◆本表の対象範囲は、TOHO animationレーベル及び、これに準ずる作品です。

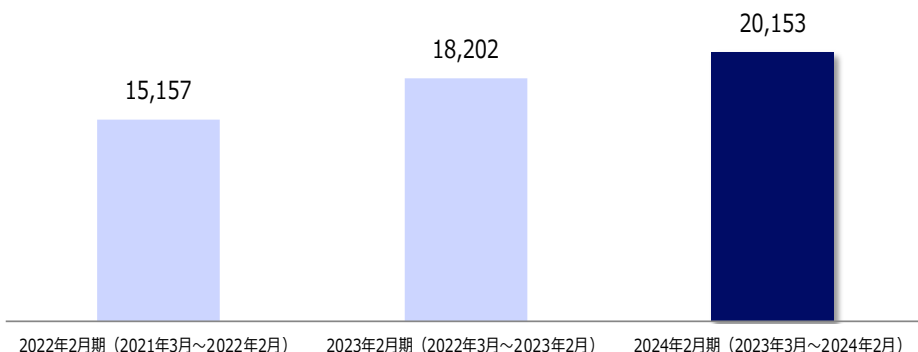
	2023年2月期 通期	2024年2月期 通期	前期比	増減率	主な増減要因
配信	9,354	18,433	9,079	97.1% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「SPY×FAMILY」「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」が大きく伸長
キャラクターライセンス	6,281	7,916	1,635	26.0% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「呪術廻戦」「ハイキュー!!」「僕のヒーローアカデミア」が堅調
商品物販	1,267	3,267	2,000	157.9% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「呪術廻戦」「劇場版ハイキュー!!」のキャラクターグッズが伸長
パッケージ	2,605	2,852	247	9.5% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「刀剣乱舞」「呪術廻戦」「お兄ちゃんはおしまい!」「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」が好調 ・ (-) 前期は「劇場版 呪術廻戦0」が稼働
劇場公開	3,337	9,174	5,837	174.9% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「劇場版 SPY×FAMILY CODE: White」、 「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」が大きく伸長 ・ (-) 前期は「劇場版 呪術廻戦0」が稼働
演劇公演	—	1,054	1,054	— ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) 「SPY×FAMILY」が帝国劇場にて初のミュージカル化 ・ (+) 関連商品等も好調
配分金 その他	1,408	3,570	2,162	153.6% ↗	<ul style="list-style-type: none"> ・ (+) TOHO Games「呪術廻戦 ファントムパレード」が好調 ・ (+) 「SPY×FAMILY」「刀剣乱舞」「呪術廻戦」の配分金が貢献
合計	24,257	46,269	22,012	90.7% ↗	
	2023年2月期 通期	2024年2月期 通期	前期比	増減率	構成比
国内	15,392	30,506	15,114	98.2% ↗	65.9%
海外	8,864	15,763	6,899	77.8% ↗	34.1%

※当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります。

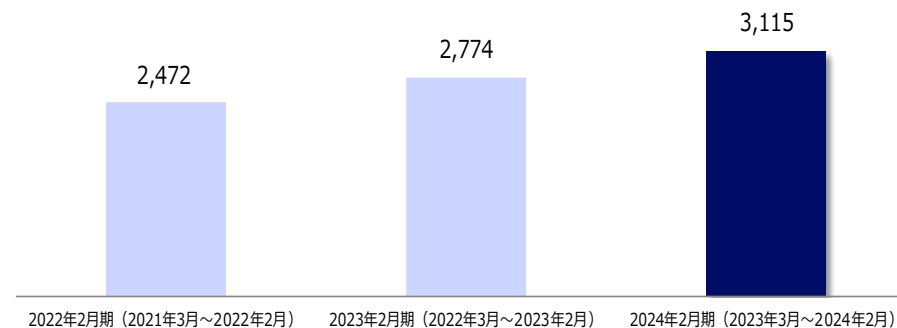
(単位：百万円)

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



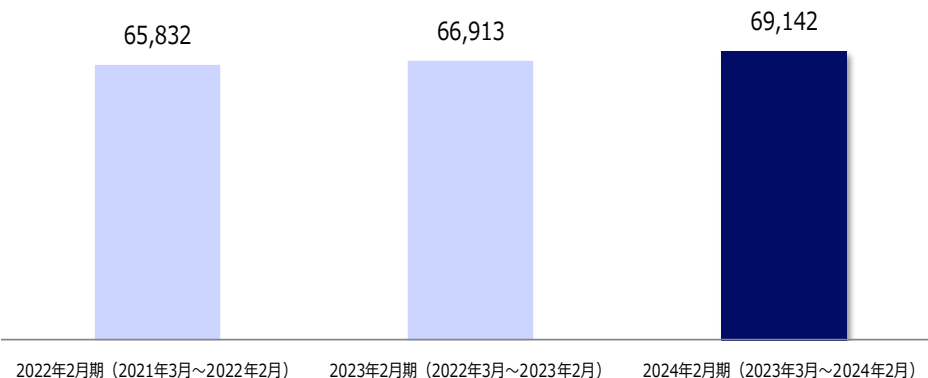
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

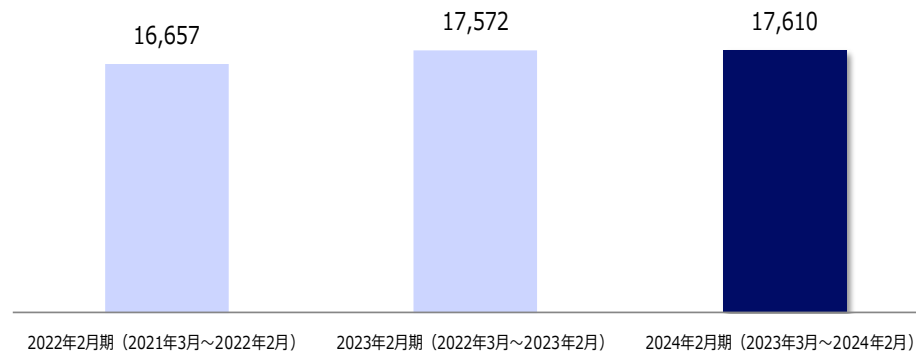
- 帝国劇場では、「ABC座星(スター)劇場2023~5 Stars Live Hours~」(12月公演)や「Act ONE」(1月公演)、初演「ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド」(2月公演)が盛況。
シアタークリエでは、「VOICARION XVII~スプーンの盾~」(12月公演)、「Yuichiro & Friends -Singing! Talking! Not Dancing!-」(1月公演)、「ATTENTION PLEASE! 2」(1月~2月公演)等を上演。
日生劇場では、「ベートーヴェン」(12月公演)、「トッツイー」(1月公演)を上演。
- 東宝芸能(株)では、長澤まさみ、浜辺美波、上白石萌音、上白石萌歌ら所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、一部公演の中止等が発生したものの、好調なチケットセールスに加え、前期に発生した出演者体調不良による休演も無く、増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が堅調に稼働。また、昨年2月竣工の「東宝日比谷プロムナードビル」をはじめとした新規物件が貢献し、減価償却費等の費用増があるものの、増収増益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたが、採算性の高い工種が減少したことや、労務費・資機材価格の上昇等が影響し、増収となるも減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注や経費削減に努めたことに加え、延期されていた工事の実施等もあり、増収増益。

当期の配当

■ 配当内容

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
前回予想 (2023年9月26日発表)	—	20.00	—	40.00	60.00
今回の変更内容	—	20.00	—	65.00	85.00
(ご参考) 2023年2月期実績	—	20.00	—	40.00	60.00

アニメ、映画、演劇、不動産の各事業が高い水準で推移した結果、歴代最高益を記録しました。
「中計経営計画 2025」において、配当性向30%以上という水準を掲げており、その方針に基づき2024年2月期期末配当につきまして、1株当たり25円増額し、65円とすることといたしました。年間では1株当たり85円となり、配当性向は32.8%となっております。

来期の業績及び配当予想

■ 2025年2月期連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2025年2月期（予想）	280,000	55,000	57,000	39,000	223.50
(ご参考) 2024年2月期実績	283,347	59,251	63,024	45,283	259.51

■ 2025年2月期 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2025年2月期(予想)	—	35.00	—	35.00	70.00
(ご参考) 2024年2月期実績	—	20.00	—	65.00	85.00

「中計経営計画 2025」において、配当性向30%以上という水準を掲げており、その方針に基づき2025年2月期の年間配当は70円（上期35円、下期35円）と予想しております。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 コーポレート本部 総務部 IR室
Mail : pr_ir@toho.co.jp